

平成26年度 御所小学校「学力向上実行プラン」

学力・学習状況における現状分析，目標等

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況			
よ さ	漢字の読み書きや整数の四則計算などについては，ある程度の定着が見られる。	課題	漢字・計算などの基礎的・基本的な知識・技能の定着が十分でない児童がいる。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。		漢字・計算のテストの正当率80%の児童を80%以上にする。	漢字・計算のテストの正当率80%の児童は，漢字テストでは，86%・計算テストでは，83%であった。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①モジュール学習の時間を利用して，漢字・計算のドリル学習をさせる。 ②家庭学習の手引きを全家庭に配布し，家庭での目標学習時間が達成できるように指導していく。 ----- *中間期の見直し アンケートにより各学年の学習時間が十分達成できていないので，家庭学習の内容を検討し，家庭との連携を図りながら指導を継続する。		①「モジュール学習は充実していた」と回答する教員が90%以上を目指す。 ②宿題等の家庭学習したもの，提出率95%を目指す。	①ドリル学習だけでなく，視写や聞く力をつけるための学習も行い，モジュール学習を充実させることができた。 ②提出率95%を達成することができた。提出できない児童には，こまめに家庭と連絡をとり協力を求めた。
達成状況を踏まえた改善事項			
・発達段階に応じて，成果指標を設定する。 ・モジュール学習をさらに充実させるために，児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握し，内容を見直す。来年度は，校内で統一した学習内容に取り組む。 ・家庭学習状況を把握するために，家庭学習調査を学期ごとに実施する。また，家庭との連携を図りながら，指導を継続する。			

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況			
よ さ	方法や手順が分かる学習に対しては，まじめに取り組み，発表できる。	課題	自分の考えを述べることに，苦手意識をもっている児童が少なくない。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
自分の考えを人に伝えることができる。		アンケートで「自分の考えを伝えることができる」と回答する児童の割合を70%以上にする。	「自分の考えを伝えることができる」と回答する児童の割合は77%であった。 ----- 評価 B

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①「発表の仕方」を教室に掲示し活用したり思考モデルを示したりする。 ②授業の中で子どもたちが話し合ったり発表したりする場を多く設定する。 ----- *中間期の見直し 自分から進んで発表する機会を増やすためにホワイトボード等を活用する。	①アンケートで「自分から進んで発表する」と回答する児童の割合を30%以上にする。 ②ペア学習やグループ学習など話し合う場面を1日1回以上設定する。	①アンケート結果から、71%の児童が「自分から進んで発表する」と回答したが、学年が上がるにつれその割合は低くなっていた。 ②ホワイトボードを活用して、自分の考えを発表する機会を多く設けた。自分の考えを伝えにくい児童の自信に繋がった。
達成状況を踏まえた改善事項		
・全体場で自分から進んで発表できるようにするために、引き続きホワイトボードを活用するとともに、付箋紙等を使って自分の考えを明らかにし、その理由などについて発表する機会を増やす。		

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		
よ さ	与えられた課題に対しては、進んで取り組んでいる。	課 題
		自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
疑問を持ち、解決するために自ら取り組むことができる。	振り返りカードなどを活用し、主体的に取り組めたと答える児童の割合を50%以上にする。	主体的に取り組めたと答える児童の割合は70%であった。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①いろいろな体験学習や交流の場を設定する。 ②体験したことや収集した情報をまとめたり、表現したりして自分の考えを伝え合う活動を重視する。 ----- *中間期の見直し 授業では、学習のめあてを明確にし振り返りの時間を確保する。 異学年交流や集会活動等を増やし、児童が主体的に活動する場を充実させる。	①教員が「体験学習をよく行った」と答える割合を90%以上目指す。 ②児童が成果を発表する場を年3回以上設ける。	①体験学習は、充実できた。体験活動やフィールドワーク、ゲストティチャーの活用などあらゆる方向から体験学習を行った。 ②発表する場は設定することができた。学習の成果を異学年で交流し合ったり、保護者や地域の方に発表したりできた。
達成状況を踏まえた改善事項		
・各教科等の年間計画を十分に練り、意図的、計画的、組織的な年間指導計画の作成を行う。 ・学ぶ意欲が増すように、児童の気づきや疑問を具体的にとらえ生活科、総合的な学習の時間等の単元を設定する。		